

2018年全日本カート選手権OK部門第5・6戦 2018年全日本カート選手権FS-125部門東地域第3戦
2018年地方カート選手権FP-3部門/FS-125部門東地域第3戦
2018年ジュニアカート選手権FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門東地域第3戦 [JAF公認No.2018-1807]

開催日：6月30日～7月1日 開催場所：茂原ツインサーキット東コース 格式：国内/準国内 主催：MTC [団体登録No.公認81202]

フォト/小竹充 レポート/水谷一夫

高橋悠之選手が2年ぶりに全日本最高峰を制す



2年ぶりとなる全日本カート最高峰クラス優勝を飾った高橋悠之選手。

全

日本カート選手権の真夏の風物詩、千葉・茂原ツインサーキットでの大会は、今年も厳しい暑さに見舞われた。路面とマシンに容赦なく照り付けるまぶしい日差し。ドライバーもエンジンもタイヤも、限界ぎりぎりの戦いだ。

ポイントリーダーの佐々木大樹選手は、スーパーGT参戦のためこの大会を欠場。チャンピオン獲得を狙うライバルたちは、この機にビッグポイントを稼いでおきたいところだ。

大会初日、タイムトライアルで明らかになったのは、ブリヂストン勢の速さだった。トップ

は名取鉄平選手、2番手は高橋悠之選手。以下5番手までをBSユーザーが占めた。ヨコハマ勢は、三村壮太郎選手と佐藤蓮選手が6・7番手に。名取選手とは0.3秒の差がある。ダンロップ勢は井本大雅選手の12番手が最上位だ。

続いて行われた第5戦の予選ヒートでは、まさかのハプニングが起きた。名取選手が2番手走行中、シケイン内側のスポンジバリアに接触してスピン、リタイアとなったのだ。このヒートを1位で終えたのは高橋選手。2位の佐藤選手を4秒以上も引き離す独走だった。

一夜明けて第5戦の決勝。高橋選手は先頭の

まま28週のレースを開始した。2番手の佐藤選手は懸命に高橋選手を追うが、差は周回ごとに開いていく。その後方から、猛烈なペースで追いついてくるマシンが。22番グリッドから汚名返上を期してスタートした名取選手だ。

名取選手はスタート直後のマシンの群れをかき分け、1周目に11台を抜き去ると、6周目には6番手に浮上。9周目に2番手の佐藤選手がメカトラブルに見舞われ、4番手の富田自然選手とともに戦列を去ると、山田杯利選手をパスした名取選手は3番手になっていた。12周目、名取選手が野中誠太選手をかわす。前にいるのは、



1. 圧倒的な速さで第5戦を制した高橋悠之選手はポイントランキング首位に浮上。2. 後方から追いついて2位を獲得した名取鉄平選手。3. 嬉しい初表彰台となったルーキーの山田杯利選手。

4. 第5戦の勢いをそのままに第6戦決勝では見事1位獲得となった名取鉄平選手。5. マシントラブルで第5戦はリタイアとなった佐藤蓮選手は健闘して3位。



全日本FS-125部門 / 7. 高口選手は2位に終わったが、東のポイントリーダーに躍り出た。8. 3位は山中秀馬選手。最初の2周で4つ順位を上げて初表彰台。9. 左から2位・高口選手、1位・大草選手、3位・山中選手。10. 約0.5秒差のチェイスを終盤まで続け、ラスト5周でその差を広げた大草選手が初優勝。11. 「全日本2年目でやっと勝てて本当に嬉しいです。しんどいレースだったけれど、自分が速いことは分かっていたので逃げ切れると思っていました」とレース後、大草選手はコメントした。

いよいよトップの高橋選手だけだ。

この時点で、高橋選手と名取選手の差は3.6秒。ラップタイムは、ほんのわずかに名取選手の方が速い。両者の間隔はじわじわと、だが確実に詰まっていく。逆転は難しいペースだが、名取選手に優勝を諦める気配はない。

静かな、だが緊迫感をはらんだチェイスは、残り2周で2秒差を切った。しかし、それ以上のドラマは起こらなかった。ピットサインレーンのチームクルーたちに拳を突き上げながら、高橋選手がチェッカーへ。

続いて名取選手が天を仰ぎながらフィニッシュラインをまたいだ。表彰台で体力が尽きてしゃがみ込む名取選手。まさに全力を振り絞ったの戦いだった。

「シンプルに、本当にうれしいです。序盤のポテンシャルがいいのは分かっていたから、早いうちに後ろを引き離そうと思っていました」と高橋選手。全日本の最高峰クラスでは、2016年

のKF部門第1戦以来の勝利だった。

3番手でフィニッシュした野中選手は、フロントフェアリングのペナルティで7位に降格。替わってルーキーの山田選手が3位となり、初表彰台に立った。

正午過ぎに行われた第6戦の予選では、厳しい暑さが高橋選手のマシンに牙をむいた。フロントタイヤがスローパンクチャーの症状を起こし、順位を落として10位に沈んだのだ。対して名取選手は、落ち着いた走りでも1位となって決勝のポールを手にした。

迎えたこの日最後のレース、第6戦決勝。名取選手は綺麗にスタートを決めると、徐々に後続を引き離していった。一方、高橋選手は着実に挽回を続け、9周目にはセカンドグループの先頭を行く佐藤選手の背後、3番手に上がってきた。その目が見据えるのは、0.6秒ほど前を走っているトップの名取選手だ。

第5戦と第6戦で追う者と追われる者が入れ

替わった優勝争い。そこに、ヨコハマタイヤの威信を背負った佐藤選手が割って入り、背後からプレッシャーをかける高橋選手に逆転のチャンスをなかなか与えない。高橋選手がようやく2番手に出たのは、レースが終盤戦に入った23周目のことだった。

ラスト5周、名取選手と高橋選手の間隔はだんだんと縮まっていく。最終ラップ、その差は0.3秒に。しかし、時間切れだった。名取選手は高橋選手に0.271秒先んじてフィニッシュ、第4戦に続く今季2勝目を飾った。

「タイヤが激しくステアリング操作も困難な中、ちゃんとトップでゴールできてよかった」と、充実感溢れる表情で語る名取選手。

高橋選手は「あと1周あれば」の2位だったが、これでポイントランキングの首位に浮上。佐藤選手は3位フィニッシュでBS勢の表彰台独占を阻止し、ランキング2番手をキープしたレースを「まずまずの結果」と評した。



地方FS-125部門 / 12. 決勝終盤、トップの清水啓伸選手に2番手の鶴田哲平選手が接近、さらに3番手の小林拓末選手もそこに追い付き、3台一丸の優勝争いに。最終ラップに小林選手が鶴田選手をパス。清水選手が、ポール・トゥ・ウィンで2連勝を遂げた。13. 小林選手は自己最上位の2位。14. 鶴田選手は初参戦で3位獲得。



地方FP3部門 / 15. 今季最多の12台が参加したFP-3部門。ボールの川福健太選手は最初の2周で後続を引き離すと、その差を周回ごとに拡大。その後方ではラスト3周に今澤和弘選手、鈴木太郎選手、高田亮選手、横田英宣選手によるバトルが展開されたが、5秒以上リードを広げた川福選手が2連勝。16. 今澤選手は2位。17. 鈴木選手は3位に入賞した。



FP-Jr部門 / 18. 決勝は角陽向選手と金子来夢選手が先頭集団を牽引。そこに13番手から突進した鈴木斗輝選手が追い付きトップに立つ。すると、ラスト3周を迎えるストレートでアクシデントが発生、レースは終了。鈴木選手が12台抜きで初優勝を飾る結末となった。19. 2位の金子選手は初表彰台獲得。20. 荒尾創大選手は3位。



FP-Jr Cadets部門 / 21. 決勝は、ボールからトップを行く佐藤選手の後後に、鈴木恵武選手以下4台のマシンが貼り付き競い合う展開。レース中盤、2位争いの激化に乗じて佐藤選手が集団を抜け出し、初優勝を飾った。22. 2番手でゴールした鈴木選手はペナルティで降格となり、岸風児選手が2位。23. 五十嵐文太郎選手が3位を得た。